

平成22年度第14回都市経営会議

日時 平成22年12月15日(水) 13:00~14:10

会場 市長応接室

参集者 西尾市長 谷澤副市長 小柏副市長 多賀谷教育長 中林水道局長
渡辺企画部長 上戸総務部長 片岡財務部長

議題(1) 市立障がい児・者統合施設の職員体制について

◎対応 川越福祉部長 藤田次長 中川福祉事務所長 佐賀井社会課長
澤口参事 岸本福祉推進課長 谷障害福祉課長 佐藤あおば学園長
後藤ともえ学園長 本吉青柳学園長

◆ 議題の趣旨 ◆

市立障がい児・者施設を統合するにあたり、近年増大している発達障がい児の対応として、専門医を配置し受診体制を構築するとともに、相談支援専門職員を配置し療育相談や生活指導を行うなど、新たな職員体制について協議を行いました。

◆ 協議の結果 ◆

原案については承認されました。

◆ おもな発言 ◆

■ 川越福祉部長

市立障がい児・者施設の統合施設は、総合的な支援センターとして整備することから、従来のサービスを継続するほか、近年増大している発達障がい児の対応として、専門医を配置し受診体制を構築するとともに、相談支援専門職員を配置し療育相談や生活指導を行いたい。また、円滑に地域生活や就労などに移行するため、自立訓練事業を実施したい。

このたびは、常勤の専門医と、相談支援専門職員としての保健師の配置について協議願いたい。

■ 中林水道局長

札幌や旭川では、近郊自治体の住民も利用することから、北海道が療育センターを設置し運営している。函館の場合も同様の実態があるのだから、専門医の配置部分を函館市単独で負担するのはおかしいのではないかと考えるが、そのような働きかけはしたのか。

■川越福祉部長

これまでのところしていない。近郊自治体住民の利用があることで北海道などに応分の負担を求めるとなれば、この施設に限らず市立函館病院でも同様となってしまう。

■片岡財務部長

施設の統合にともない、管理費の縮減などもう少しスケールメリットを出してもらいたい。

■西尾市長

医師の配置は、障がい児・者の総合療育センターの役割を持たせるためにも必要なものである。施設を作って相談支援専門職員を置き、発達障がい児への対応に力を入れるのであれば、民間施設や病院との連携を進めるため、全体に目配りが出来る人材が必要だ。保健師にこだわらないで公募で考えてもいいのではないか。

■谷澤副市長

道南の中核都市としての役割を考えれば、医師の配置にかかる負担を担う必要があるのではないか。

■西尾市長

経費については、出来るだけコストダウンを図ることを前提に進めていく。発達障がい児の受診体制は、既存施設では間に合っていない実態があるので、専門医の配置については考慮するべきと考える。単なる統合ではなく、障がい者福祉の中核施設にする必要がある。

■多賀谷教育長

学校教育の現場でも、発達障がいを抱える児童が増えているが、現在の診断体制では対応が不十分なのが実態だ。利用する側にとってはありがたい話だが財源的には難しい面もある。

■川越福祉部長

常勤の医師となることで、診療報酬が見込める。医師の確保は難しい状況にあるので、この場で了解が得られれば、早々に人選を進めたいと思うがよろしいか。

■谷澤副市長

早期に治療することにより早期の回復が図られる。医師については必要ということでもいいのではないか。

■中林水道局長

北海道などに対して一定の働きかけは必要だ。

■西尾市長

全体的な方向性としては原案どおりとする。詳細については担当副市長と適宜詰めて欲しい。

議 題(2) 食育推進計画(素案)について

◎対 応 山田保健所所長 辻参事 佐藤健康づくり推進室長
五十嵐健康増進課長 天羽参事

◆ 議題の趣旨 ◆

函館市食育推進計画である「はこだてげんきな子 食育プラン」の素案が完成したことから、その内容について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

素案の内容について一部修正をすることになりましたが、基本的には了承されました。

◆ おもな発言 ◆

■佐藤健康づくり推進室長

函館市食育推進計画である「はこだてげんきな子 食育プラン」の素案が出来たことから内容について協議いただきたい。本素案では、地域との連携により子どものための食育を推進することとしており、平成23年度から平成27年度までの5か年の計画となっている。計画の推進にあたっては、目標値を設定して進行管理に努めたい。

■上戸総務部長

指標として体験農園の利用率があるが、民間でも実施しており違和感を感じる。

■西尾市長

これまでの取り組みなどをまとめた形になっているが、計画を策定するにあたり、何か新しい取り組みを展開する予定はないのか。

■山田保健所所長

様々な個別計画のなかに具体の取り組みが記載されていることから、それらを取り込んで理念としてまとめたものが本計画であり、全体の意識を高めることが基本的な方向性だと考えている。新たな取り組みを考える予定はあるが、それがメインにはならないと考えている。

■西尾市長

「こ食」の部分の記載について、実態として「こ食」にならざるを得ない人もいることから、記載内容について配慮して欲しい。また、素案では、子どもの食育が中心になっているが、これから高齢社会がますます進展することを考えれば、高齢者についての視点も大事なのではないのか。

■山田保健所所長

所内でも協議をしたが、高齢者に対する対策については、健康づくりの基本計画である「健康はこだて21」に記載があることなどから、総花的なものにするより焦点を絞ったものの方がいいだろうと判断し、子どもの食育に絞ったという経過がある。

■西尾市長

子どもが中心の計画でかまわないが、そういう視点も入れて欲しい。また、多くの人目に触れるよう、概要やパンフレットを作成し、啓発に力を入れてもらいたい。

■中林水道局長

計画で掲げられた課題は、本来家庭で解決出来ることだ。わざわざそれぞれの主体に分ける必要があるのか。

■山田保健所所長

共働き世帯の増加など、家庭環境の変化もあり、現実的にここで掲げられたような課題がある。社会全体でサポートするという考えだ。

■渡辺企画部長

やりたくてもやれない家庭もある。そのことで傷つくこともあるので、記載内容には十分気をつける必要がある。そういう趣旨で書き加えるべきだ。一部修正をするようにとの指摘もあったが、素案としてはこれでいいか。

■西尾市長

基本的にはこれでよい。協議を踏まえ調整して欲しい。